

いわて 復興の歩み

2011.3-2019.3 東日本大震災津波からの復興の記録



目次 CONTENTS

はじめに	1
1 概況・被害状況と復興推進の基本方向	2
2 復興の状況	4
3 これまでの主な取組	
① 防災のまちづくり	6
② 交通ネットワーク	8
③ 保健・医療・福祉	10
④ 生活・雇用	12
⑤ 水産業・農林業	13
⑥ 商工業・観光	14
⑦ 教育・文化・スポーツ	16
⑧ 地域コミュニティ	18
⑨ 未来のための伝承・発信	19
⑩ 全国・海外からの応援	20
4 これまでの復興の歩み	22

岩手県の紹介



スマートフォン等で
二次元バーコードを読み込んで下さい。
岩手県公式HP「いわて復興の歩み」
動画ページに進みます。

知事メッセージや
岩手県沿岸地域の
様子が映像で
ご覧になれます。



はじめに

平成23年(2011年)3月11日に発生した東日本大震災津波により、岩手県では、沿岸部を中心に災害関連死を含め5,140名の尊い命が奪われました。犠牲になられた方々に、謹んで哀悼の意を表します。また、今なお1,114名の方々が行方不明となっており、御家族の皆様にご心からお見舞い申し上げます。

東日本大震災津波からの復興に当たっては、犠牲になられた方々の故郷への思いをしっかりと引き継ぐこと、そして、被災された方々の「暮らし」、「学び」、「仕事」を確保し、一人ひとりの幸福追求権を保障していくことを原則として、「いのちを守り 海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造」を目指し、「岩手県東日本大震災津波復興計画」を策定し、平成23年度(2011年度)から平成30年度(2018年度)までの8年間で復興計画期間と位置付け、一日も早い復興の実現に向けて県政史上かつてない規模と体制で取り組んでまいりました。

これまでの8年間で災害廃棄物の処理、被災した漁船や養殖施設の整備などが完了したほか、復興道路や津波防災施設、災害公営住宅の整備、商業施設や水産加工施設の再開、さらには被災した全ての県立病院や公立学校施設の復旧が完了するなど、復興の歩みは着実に進んでいます。このように、暮らしの再建が進展したことに加え、宮古港と室蘭港を結ぶ岩手県初となるフェリー航路の開設、岩手と台北や上海を結ぶ国際定期便の就航や、三陸鉄道リアス線、復興道路等の開通など、新しい交通ネットワークが広がり、観光や経済などの様々な交流を深めることができました。

新しい県の総合計画「いわて県民計画(2019~2028)」においても、復興を県政の最重要課題と位置付け、復興計画期間に整備が終わらなかった社会資本の早期整備完了を目指すとともに、被災者のこころのケアやコミュニティ形成の支援、農林水産業や商工業の振興など、三陸地域の将来を展望しながら三陸のより良い復興(ビルド・バック・ベター)の実現に向けた取組を推進していきます。

また、被災県として、日本そして世界の防災力の向上に貢献できるよう、東日本大震災津波の事実を踏まえた教訓を伝承し、復旧・復興の取組や防災・減災の最先端地域としての三陸の姿を広く国内外に発信してまいりますので、引き続き、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、この小冊子により、岩手県の復興の状況について理解を深めていただくとともに、日本全国及び世界中の皆様が、今後、様々な自然災害に立ち向かい、新しい復興を進めていくため広く御活用いただきますよう、お願い申し上げます。

令和元年5月11日
岩手県知事



達増拓也

概況・被害状況と 復興推進の基本方向



たろう観光ホテル(平成23年3月)

東日本 大震災津波の概況 (岩手県災害対策本部調べ)

- ▶ 名称(発生日時) 東日本大震災津波(平成23年3月11日(金)14時46分頃)
- ※地震による震災の名称について、政府は「東日本大震災」としていますが、岩手県では「東日本大震災津波」と表記することとしています。
- ▶ 震央地 三陸沖・牡鹿半島の東南東約130km付近(北緯38°06.2' / 東経142°51.6')
- ▶ 震源の深さ・規模 24km・マグニチュード9.0(モーメントマグニチュード)
- ▶ 本県の最大震度 震度6弱:大船渡市、釜石市、滝沢村、矢巾町、花巻市、一関市、奥州市、藤沢町
- ▶ 津波の最大波 [宮古]11日15時26分 8.5m以上 [釜石]11日15時21分 4.2m以上 [大船渡]11日15時18分 8.0m以上 [久慈港]8.6m(推計値)

岩手県における被害状況

痕跡高・死者数・行方不明者数・家屋倒壊数
 (平成31年3月31日現在)

洋野町 痕跡高…洋野・久慈北海岸12.0m
 家屋倒壊数 …………… 26棟

久慈市 痕跡高…久慈湾13.7m
 死者数… 3人 / 行方不明者数…2人
 家屋倒壊数 …………… 278棟

岩泉町 痕跡高…岩泉海岸20.2m
 死者数… 10人
 家屋倒壊数 …………… 200棟

大槌町 痕跡高…大槌湾15.1m
 死者数… 855人 / 行方不明者数…419人
 家屋倒壊数 …………… 4,167棟

釜石市 痕跡高…両石湾22.6m
 死者数… 994人 / 行方不明者数…152人
 家屋倒壊数 …………… 3,656棟



野田村 痕跡高…野田湾21.4m
 死者数… 39人
 家屋倒壊数 …………… 479棟

普代村 痕跡高…普代海岸18.4m
 行方不明者数 …… 1人

田野畑村 痕跡高…田野畑海岸23.0m
 死者数… 17人 / 行方不明者数…15人
 家屋倒壊数 …………… 270棟

宮古市 痕跡高…重茂海岸21.8m
 死者数… 475人 / 行方不明者数…94人
 家屋倒壊数 …………… 4,005棟

山田町 痕跡高…船越湾19.0m
 死者数… 687人 / 行方不明者数…145人
 家屋倒壊数 …………… 3,167棟

大船渡市 痕跡高…綾里湾23.8m
 死者数… 422人 / 行方不明者数…79人
 家屋倒壊数 …………… 3,938棟

陸前高田市 痕跡高…広田湾18.3m
 死者数… 1,604人 / 行方不明者数…202人
 家屋倒壊数 …………… 4,047棟

内陸部
 死者数 …………… 34人
 行方不明者数 …………… 5人
 家屋倒壊数 …………… 1,846棟

本県全体
 死者数 …………… 5,140人
 行方不明者数 …… 1,114人
 家屋倒壊数 …… 26,079棟

※死者数は、直接死(岩手県警調べ)及び関連死(岩手県復興局調べ)。
 ※家屋倒壊数は、全壊及び半壊数。
 ※痕跡高は、堤防付近での測定値(「岩手県沿岸における海岸堤防高さの設定について」による)。



久慈市



野田村



田野畑村



山田町



大槌町



釜石市



大船渡市



陸前高田市

○産業被害額 (平成23年11月25日現在)

●農林業	984億円
●水産業、漁港	5,649億円
●商工業	1,335億円
●観光業(宿泊施設)	326億円
●合計	8,294億円

○公共土木施設被害額 (平成23年7月25日現在)

●河川、海岸、道路等施設	1,723億円
●公園施設	405億円
●港湾関係施設	445億円
●合計	2,573億円

○津波浸水範囲の土地利用構成率

田	その他の農用地	森林	建物用地
17%	4%	9%	34%

(平成23年4月18日国土地理院「津波浸水範囲の土地利用別面積について」による)

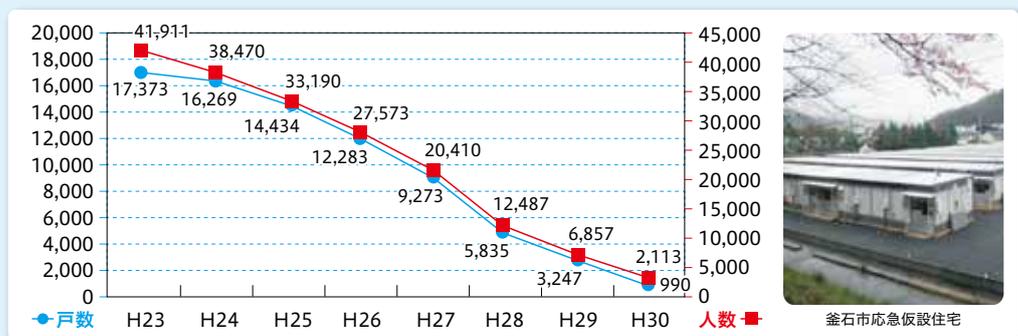
○推定資本ストック被害額・被害率

(単位:10億円)

	推定資本ストック A	推定資本ストック被害額					被害率 B/A	GDP値 C	被害額がGDPに占める割合 B/C
		生活・社会インフラ	住宅	製造業	その他	合計 B			
岩手県	内陸部	26,369	457	22	64	211	754	4,255	1.0年分
	沿岸部	7,449	1,943	607	191	781	3,522		
	合計	33,818	2,400	629	255	992	4,276		

※推定資本ストック被害額及び被害率については、株式会社日本政策投資銀行推計(平成23年4月28日)
※GDP値は、「平成21年度の県民経済計算について」(平成24年2月29日 内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部)による

○応急仮設住宅等への入居状況 (平成31年3月31日現在)



いわて県民計画(2019~2028)における復興推進の基本方向

岩手県では、今回の震災を乗り越えて力強く復興するための地域の未来の設計図として、平成23年8月11日に計画期間を8年間とする「復興計画」を策定し、復興の取組を進めてきました。被災地においては引き続き中長期的に取り組むべき課題もあることから、2019年度以降も、県の総合計画である「いわて県民計画(2019~2028)」において、復興を県政の最重要課題として位置付け、被災者一人ひとりの復興が成し遂げられるよう、必要な取組は最後まで実施していくこととしています。



問合せ先▶復興局復興推進課 ☎019-629-6945

復興の状況



東日本大震災津波で甚大な被害を受けた陸前高田市では、岩手県が整備する高さ12.5メートル、全長2,000メートルの県内最大規模の防潮堤が、平成29年度末までにほぼ完成しました。現在は、海岸に隣接する気仙川の水門工事との接続区間の防潮堤について、早期完成を目指し、整備を進めているところです。この防潮堤は、数十年から数百年に一度の頻度で発生する津波高を想定し建設されています。

陸前高田市(平成31年2月)

安全の確保

災害廃棄物の処理

災害廃棄物推計量525.3万トン

処理量 618.4万トン **118%**

(平成26年3月終了)



釜石市災害廃棄物の選別作業
(平成25年10月)



久慈市久喜漁港海岸災害
復旧工事(平成25年9月)

海岸保全施設の復旧・整備箇所数

計画箇所数 134箇所

完了 83箇所

61.9%

復旧・整備中 **38.1%**

面整備事業箇所数

事業箇所数 158箇所

完了箇所数 145箇所

92%

整備中

8%

復興道路供用延長キロ数

事業化延長 359km

供用中 231km **64%**

事業中 **36%**

宅地供給区画数

予定宅地区画数 7,477区画

供給区画数 7,143区画

95.5%

整備中

4.5%



提供:南三陸国道事務所

三陸沿岸道路(釜石南～釜石両石)
東北横断自動車道釜石秋田線(釜石～釜石仙人峠)開通式(平成31年3月)



大槌町赤浜地区防災集団移転住宅団地(平成31年3月完成)

※進捗状況は、特に表記のない場合、平成31年3月31日現在のものです。

暮らしの再建

応急仮設住宅等入居者数(みなし仮設を含む)

ピーク時(平成23年10月)43,738人 入居中 2,113人



災害公営住宅整備戸数

整備予定戸数5,550戸

完成 5,540戸



※内陸避難者のための災害公営住宅283戸除く

被災者生活再建支援制度

基礎支援金支給件数 23,164件



医療施設数(沿岸地区)

震災前(平成23年3月)240施設



※自院または仮設施設において診療を行っている医療機関(病院・医科診療所・歯科診療所)

公立学校施設の復旧状況(沿岸地区)

被災学校数 86校



公立文化施設・体育館の復旧状況

整備予定施設数 58施設

未着工 1施設 整備中 2施設



陸前高田市応急仮設住宅(平成27年1月)



釜石市浜町復興住宅(平成30年12月竣工)



陸前高田市立気仙小学校(平成30年12月完成)

なりわいの再生

産地魚市場水揚量

震災前3年間(H20~22)の平均 169,627トン



養殖生産量

震災前3年間(H20~22)の平均 47,478トン



農地の復旧面積

復旧対象面積 542ha



被災事業所における事業再開の状況(推計)

対象事業所数 2,507事業所

未再開等 404事業所



(平成30年8月1日現在)

被災事業所における業績(売上)状況

対象事業所数 1,186事業所

被災前と同程度以上 540事業所

被災前よりも下回っているまたは事業未再開等 646事業所



(平成30年8月1日現在)

主要観光地の入込客数

震災前(H22)470.3万人回



※県内主要観光地14箇所を対象



山田町共同店舗棟「オール」(平成28年11月)



東日本大震災復興交付金事業で整備した農地での田植え(平成30年5月)



田野畑村机浜番屋群(平成27年9月)



道の駅たろう(平成30年5月)



三陸鉄道「リアス線」全線開通(平成31年3月)

①

防災のまちづくり

■ 災害廃棄物(がれき)の処理

約618万トン[本県一般廃棄物約14年分]の処理を終了

大震災津波により約618万トンの災害廃棄物が本県で発生しましたが、県内外の自治体の協力や、多くの関係者・住民の皆様のご理解とご支援に支えられ、平成26年3月末までにその処理を終えました。



宮古市赤前地区・宮古運動公園(平成23年5月撮影)



宮古市赤前地区・宮古運動公園(平成25年8月撮影)

災害廃棄物の広域処理先

青森県	61,003ト
宮城県	4,326ト
秋田県	37,539ト
山形県	77,687ト
福島県	12,131ト
群馬県	7,673ト
埼玉県	1,147ト
東京都	106,051ト
神奈川県	159ト
新潟県	291ト
富山県	1,256ト
石川県	1,953ト
福井県	6ト
静岡県	3,176ト
大阪府	15,299ト
合計	329,697ト (1都1府13県)

■ 生活空間の放射線量などの測定

測定結果をホームページで公表

生活空間の放射線量や、大気中のちり、降水(雨、雪)、水道水、農林水産物などに含まれる放射能を測定し、その結果をホームページで公表しています。生活空間の放射線量は、平成25年8月以降、全地点で国の除染基準を下回っており、緩やかな低減から最近では横ばい傾向にあります。

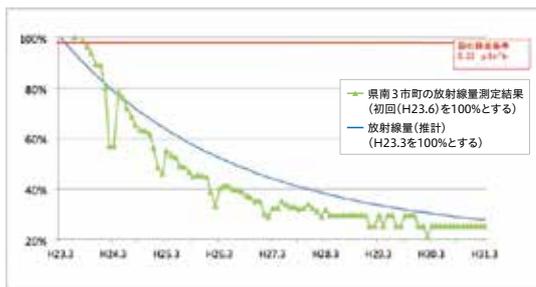


図 汚染状況重点調査地域における測定結果の推移
 ※積雪時は、遮へい効果で測定値が低めとなっています。

放射能に関する情報 >>

<https://www.pref.iwate.jp/houshasen/index.html>



サーベイメータによる測定

復興のまちづくり

災害に強い安全なまちづくりを実現

平成31年3月末時点で、区画ベースでは予定している7,477区画全てで工事が着工しており、そのうち7,143区画(約96%)が完成しています。被災地のまちづくりは、着実に進んでいる状況です。



陸前高田市高田南地区津波復興拠点整備事業をはじめとする関連事業により整備を進めた中心市街地の様子(平成30年9月)



完成した「イーストピアみやこ」(平成30年9月完成)

事業名	実施市町村数・実施箇所数/区画数	都市計画決定	事業認可(防集は大任同意)	工事着工地区	造成完了地区
土地区画整理事業	7市町村・19箇所/4,911区画	19箇所	19箇所	19箇所	15箇所/4,577区画
津波復興拠点整備事業	6市町・10箇所	10箇所	10箇所	10箇所	6箇所
防災集団移転促進事業	7市町村・88箇所/2,101区画		88箇所	88箇所	88箇所/2,101区画
漁業集落防災機能強化事業	11市町村・41箇所/465区画			41箇所	36箇所/465区画
合計	12市町村・158箇所/7,477区画			158箇所	145箇所/7,143区画

(平成31年3月31日現在)

海岸保全施設等の復旧・整備

復興まちづくりと一体となった防潮堤・水門等の復旧・整備

被災した防潮堤等の海岸保全施設の復旧・整備に当たっては、高潮等の被害が予想される箇所について、仮防潮堤を築造する等の応急工事を実施したほか、津波、都市計画及び地震等の専門家で構成される「岩手県津波防災技術専門委員会」を設置し、各市町村から復興まちづくりの方向性を伺いながら、科学的・技術的な知見に立脚した防潮堤の高さや配置の検討を進め、平成23年10月までに本県沿岸を24の地域海岸に区分し、防潮堤等の高さを公表しています。

また、海岸保全施設の早期整備のため、事業用地の取得に当たり、任意交渉と平行した土地収用手続を進めてきたほか、工期短縮や資材不足等へ対応するため、工場製品の活用などの取組を進めてきました。

この結果、平成31年3月末時点で復旧・整備が必要な134箇所全て工事に着手するとともに、83か所で整備が完了しています。

海岸堤防高さの設定 ▶ <https://www.pref.iwate.jp/kendozukuri/kasensabou/kasen/fukkyuu/settei/index.html>

高田地区海岸の復旧工事の状況



被災前(平成22年3月)



被災直後



平成29年3月末

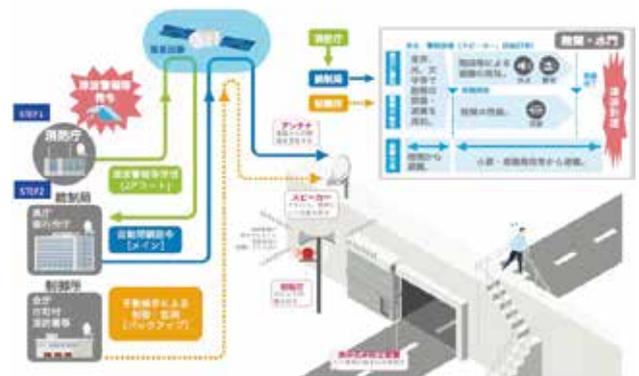
水門・陸閘自動閉鎖システムの整備

津波注意報等を契機に水門・陸閘を自動で閉鎖

東日本大震災津波において、水門・陸閘の閉鎖作業に関わり多くの消防団員が犠牲となった事実を踏まえ、操作員の安全の確保や津波から県民の生命と財産を守るため、衛星回線を活用し門扉の閉鎖などを自動で行う「水門・陸閘自動閉鎖システム」の整備を進めています。



大船渡市合足農地海岸試運転の様子(平成29年4月27日)



自動閉鎖システムの仕組み

当システムは、国が発表する津波注意報等(J-アラート)の受信を契機に、県内の各水門や陸閘に閉鎖の一斉命令を送信し、門扉の閉鎖や閉鎖にかかる安全警報等が自動で開始されます。

平成29年7月から一部で運用を開始し、今後、約220基の水門・陸閘での運用開始に向け、整備を進めていきます。

※陸閘(りっこう):堤防の海側と陸側を往来するための門扉

② 交通ネットワーク

復興道路等の整備

東北横断自動車道釜石秋田線が全線開通

災害に強い道路ネットワークを構築するため、三陸沿岸の縦貫軸及び内陸部と沿岸部を結ぶ高規格幹線道路等を「復興道路」として、整備を促進してきました。

東北横断自動車道釜石秋田線は平成31年3月9日に全線開通し、岩手県の内陸部と沿岸部が初めて高速交通体系で結ばれるとともに、同21日に釜石市から宮城県気仙沼市まで繋がった三陸沿岸道路とも結節し、高速道路ネットワークが形成されました。



三陸沿岸道路が宮城県と接続 (平成31年3月21日)



宮古盛岡横断道路 宮古西道路【県施行】開通 (平成31年3月30日)



東北横断自動車道釜石秋田線 全線開通(平成31年3月9日)

岩手県内の復興道路等計画路線

復興道路の整備効果

時間短縮

沿岸各都市間、内陸と沿岸の所要時間が短縮

災害に強い道路の確保

災害時でも安全で安心な通行が可能

渋滞解消(交通の分散)

交通量が分散し、渋滞の解消効果が期待

その他の効果

走行経費削減、交通事故解消、走行快適性向上等



(平成31年3月31日現在)



県が整備を進める復興支援道路、復興関連道路も続々と開通

内陸部から沿岸部各都市にアクセスする道路等を「復興支援道路」、沿岸部の防災拠点へアクセスする道路等を「復興関連道路」として整備を進めてきました。

平成30年度は国道284号室根バイパスや国道340号立丸峠工区、主要地方道野田山形線野田工区等が開通するなど、三陸の復興に向け着実に整備が進んでいます。



国道284号室根バイパス 開通 (平成30年4月21日)



国道340号立丸峠工区 全線開通 (平成30年11月29日)



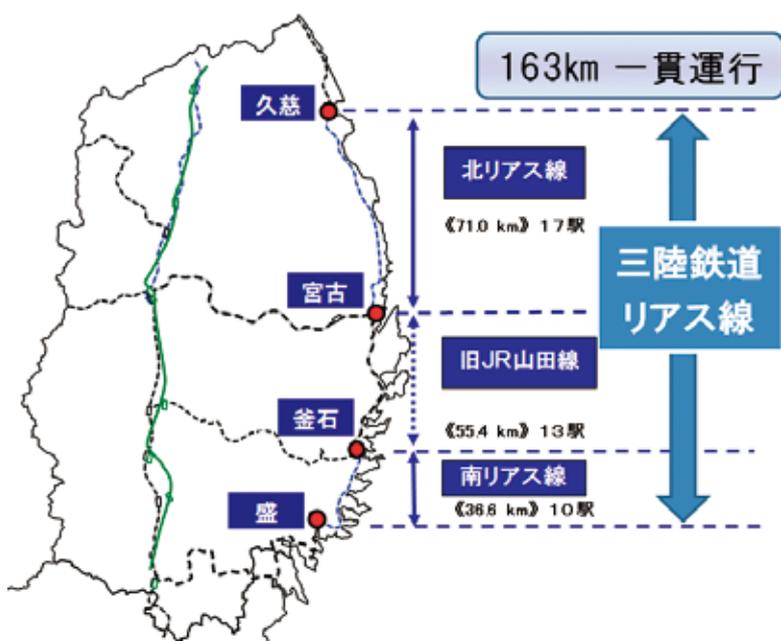
主要地方道野田山形線野田工区 開通 (平成30年12月25日)

■ 三陸鉄道リアス線誕生

平成31年3月、南北が一つに

三陸鉄道は、震災により甚大な被害を受け、全線が不通となりました。復旧には、クウェート政府からの救援金の活用による新車両の導入、駅舎の整備など、多くの企業、団体、個人の皆様からの支援をいただきながら、平成26年4月に南・北リアス線の全線で運行を再開しました。

その後、同じく震災により不通となっていた旧JR山田線(宮古-釜石間)は、平成31年3月23日に三陸鉄道へ経営移管され、国内の第三セクター鉄道としては最長となる163km(盛-久慈間)が新たに三陸鉄道リアス線として生まれ変わりました。これにより三陸沿岸が一つのレールで繋がり、住民の利便性が大きく向上します。



リアス線開通記念列車出発式(平成31年3月23日)



記念列車

■ 港湾の復旧

平成30年6月22日、宮古・室蘭フェリー航路が開設

東日本大震災津波で被災した港湾施設は復旧し、釜石港へのガントリークレーンの整備や新たな外貿定期コンテナ航路の開設など、港湾利用者のニーズに対応した施設整備や機能拡充が進んでいます。

平成30年6月22日には、岩手県宮古港と北海道室蘭港を結ぶ、本県初となるフェリー航路「宮古・室蘭フェリー航路」が開設されました。

フェリーの活用により、産業振興や交流人口の拡大など地域の活性化につながることが期待されます。



釜石港のガントリークレーン



第1便として宮古港を出港するフェリー
(平成30年6月22日)

■ 岩手県初となる国際定期便が就航

いわて花巻空港が海外からの玄関口へ

平成30年8月1日、台北との間でいわて花巻空港の開港以来初となる国際定期便が就航し、平成31年1月30日には上海との間で国際定期便が就航しました。

これにより、岩手から直接台北や上海につながるだけでなく、中国各地や東南アジア、ヨーロッパ等世界にもつながる路線となります。

いわて花巻空港が海外からの玄関口となることで、インバウンドの増加による県内への経済効果のほか、両地域との交流人口の拡大、ビジネスや文化の交流等の活性化が期待されます。



台北定期便就航



上海定期便就航

被災地における保健活動

長期化する応急仮設住宅生活に対応した予防医療

県、市町村や関係機関が連携しながら、看護職員が応急仮設住宅等を定期的に巡回するなどし、血圧測定などの健康チェックから日常の健康相談、健康教育などを行っています。

また、県歯科医師会及び県歯科衛生士会の協力のもと、被災地に歯科医師・歯科衛生士を派遣し、歯科健診、歯科相談、歯磨き指導等の歯科保健活動を実施しています。



応急仮設住宅集会所での健康チェック

こころのケアの取組

被災者1人ひとりの心に寄り添う

岩手県こころのケアセンターの設置

被災者の精神的負担を軽減するため、県内外のチームの支援により、「こころのケア」活動を行い、発災から平成24年3月末までに、延べ30チームの派遣を受け入れ、延べ約9,800人の住民のケアに取り組みました。

この活動を引き継ぎ、平成24年2月に、岩手医科大学内に「岩手県こころのケアセンター」を、3月には、沿岸4箇所(久慈市・宮古市・釜石市・大船渡市)に「地域こころのケアセンター」を設置し、被災者一人ひとりに寄り添ったこころのケアを推進しています。



岩手県こころのケアセンター職員による訪問活動

いわてこどもケアセンターの設置

震災により大きなストレスを抱えながら生活する子どもたちの心のケアに対応するため、平成23年6月に「子どものこころのケアセンター」を宮古市に開設、気仙地区・釜石地区にも同センターを順次開設しました。

平成25年5月には、中長期的に継続した支援を行う拠点として、クウェート国・日本赤十字社の支援により、「いわてこどもケアセンター」を矢巾町に開設。センターでは児童精神科外来診療のほか、沿岸地区への巡回診療、地域の支援者への研修等を実施しています。



いわてこどもケアセンター

被災地における医療確保支援

慣れ親しんだ地域で健康で安心して暮らせるように

被災県立病院の再建

被災した県立病院については、平成28年5月に大槌病院、9月に山田病院、平成30年3月には高田病院が開院し、すべての県立病院の再建が完了しました。



県立山田病院



県立高田病院

■ 被災地における高齢者の交流促進

いつまでも健康・元気で生きがいを創造

被災地高齢者ふれあい交流促進

災害公営住宅や応急仮設住宅等にお住まいの被災者と地域住民との交流の活性化や高齢者の健康の維持・増進を図るため、誰でも気軽に参加できる「ふれあい運動教室」を開催するとともに、運動教室の中心的役割を担う「ふれあい運動サポーター」の養成講座の開催や、養成講座修了者を対象としたフォローアップ研修を実施してきました。今後は、地域住民が中心となって自主的に取り組む介護予防事業への移行などを支援していきます。



ふれあい運動教室

被災地における地域包括ケアシステム構築の支援

被災地における地域包括ケアシステムの構築を支援するため、災害公営住宅や応急仮設住宅等にお住まいの要介護高齢者の介護予防や要介護高齢者のリハビリテーションに係る巡回相談・従事者への技術的助言等を行うとともに、介護予防教室・生活相談会・サロン等の開催支援、高齢者の相談・支援等に携わる関係者を対象とした研修の開催などを実施してきました。

今後は、引き続き市町村や関係団体等と連携を取りながら、現地の状況やニーズの変化に対応した介護予防教室の開催などを通じて、地域で高齢者を支える仕組みづくりを支援していきます。



大沢トリムの会

■ 防災ボランティア支援の取組

官民協働で効率的な防災ボランティア活動へ

ボランティア活動は、被災地のマンパワー不足を補うのみにとどまらず、柔軟できめ細かな支援活動により、多くの被災者を支えました。

こうした活動を一層推進するため、平成26年3月に策定した「岩手県防災ボランティア活動推進指針」に基づき、官民協働で「岩手県防災ボランティアネットワーク」を設置し、非常時における円滑なボランティアの受入に備えています。

平成28年台風第10号災害では、ネットワーク構成団体等が連携して災害ボランティアセンターを支援し、2万4千人を超えるボランティアの受入が行われました。



防災ボランティア支援ネットワーク研修会

岩手県防災ボランティア活動推進指針 ▶ <https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/fukushi/chiiki/fukushisuishin/1020242.html>

■ 岩手県災害派遣福祉チームの設置

オール岩手で災害時の福祉を確保

今回の震災の経験を踏まえ、平成25年度に、県、福祉関係団体等と官民学共同により、大規模災害時において、避難所等で高齢者や障がい者など要配慮者の福祉・介護等のニーズ把握や応急支援などを担う「岩手県災害派遣福祉チーム」を設置しました。

平成28年熊本地震や平成28年台風第10号災害では、熊本県や岩泉町へチームを派遣し、現地の支援関係者と連携して、避難所でのニーズ把握や環境改善、応急的な介助支援など様々な活動を行い、災害時における要配慮者支援体制の確保に努めました。

※要配慮者:高齢者や障がい者、妊産婦、乳幼児、病弱者等特別な配慮を必要とする方



チーム員研修

岩手県災害派遣福祉チーム ▶ <https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/fukushi/chiiki/fukushisuishin/1003513.html>

■ 災害公営住宅の整備・住宅再建支援

恒久的な住宅供給のために



大槌町安渡地区災害公営住宅（平成30年12月完成）



盛岡市備後第1（9号棟）災害公営住宅
（平成30年10月完成）

住宅を失った方への恒久的な住宅供給対策として、平成23年10月に「岩手県住宅復興の基本方針」を策定し、災害公営住宅の整備、民間持家住宅（自力再建）及び民間賃貸住宅への支援による住宅の再建支援に取り組んでいます。

そのうち、災害公営住宅については、平成31年3月末までに5,833戸の計画で5,672戸が完成しています。

災害公営住宅市町村別整備戸数		
市町村	整備予定戸数	うち完成戸数
		洋野町
久慈市	11	11
野田村	100	100
田野畑村	63	63
岩泉町	51	51
宮古市	766	766
山田町	640	640
大槌町	876	866
釜石市	1,316	1,316
大船渡市	801	801
陸前高田市	895	895
その他市町村	310	159
合計	5,833	5,672

（平成31年3月31日時点）

災害公営住宅の整備状況▶ <https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/kenchiku/saigai/kouei/1010345.html>

住まいの改修・再建▶ <https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/kenchiku/saigai/saiken/index.html>

■ 被災者相談支援センター・

いわて内陸避難者支援センターの設置

生活の再建に向けて様々な相談に対応

平成23年7月に沿岸4地区に被災者相談支援センターを設置し、生活再建に係る各種支援制度や今後の生活への不安など様々な相談に対応しています。弁護士などによる専門家相談も行っています。

また、平成28年5月にいわて内陸避難者支援センターを設置し、内陸及び県外に避難している被災者の住まいに係る相談に対応しています。



開設当初のセンター 釜石地区



被災者相談支援センター

久慈地区 ☎0120-934-755 / 宮古地区 ☎0120-935-750
釜石地区 ☎0120-836-730 / 大船渡地区 ☎0120-937-700

いわて内陸避難者支援センター

☎019-601-7640

■ 地域雇用の確保

被災求職者の生活の安定を図り、被災地の復興を支える

安定的な雇用及び地域の中核となる産業や地域経済の活性化に資する雇用を確保することにより、被災求職者の生活の安定を図り、被災者の復興を支えるため、被災求職者の雇入れに係る費用に対し、1人当たり3年間で最大120万円、求職者の雇入れのために要する住宅支援に係る費用に対し、1年間で最大240万円（最大3年間）の助成を行っています。

平成30年度までの助成対象労働者数	
年度	人数
平成23年度	139人
平成24年度	5,332人
平成25年度	7,900人
平成26年度	4,270人
平成27年度	240人
平成28年度	105人
平成29年度	87人
平成30年度	0人
合計	18,073人

⑤

水産業・農林業

■ 漁船・共同利用施設・種苗生産施設等の復旧・整備

漁業者の生産活動の早期再開を支援

壊滅的な被害を受けた本県水産業の早期復旧・復興に向けて、漁協による漁船や養殖施設の一括整備、集荷場や作業場等の共同利用施設の復旧・整備などに取り組んできました。

その結果、漁船や養殖施設、種苗生産施設等の復旧はおおむね完了し、震災前の漁業・養殖業の生産基盤が復旧しています。

今後は、漁業・養殖業の生産量の回復を図るため、新規就業者の確保や意欲ある漁業者の育成、サケ種苗放流の継続、ワカメやホタテガイなどの養殖生産の効率化等に取り組んでいきます。



「漁業就業支援フェア」による漁業者と就業希望者とのマッチング支援(新規就業者の確保)



漁業者を対象とする経営能力向上のための研修会の開催(意欲ある漁業者の育成)



早期復旧に向け漁協が核となって漁船を一括整備(音部漁港)

漁船等の整備状況・種苗等の生産供給状況			
区分	目標値	実績値	達成状況
漁船(累計)	6,693隻	6,485隻※	96.9%
養殖施設(累計)	17,480台	17,428台※	99.7%
サケ稚魚放流数(29年度)	400百万尾	369百万尾	92.3%
アワビ稚苗放流数(30年度)	890万個	784万個	88.1%
ヒラメ種苗放流数(30年度)	110万尾	116万尾	105.5%

※ 事業完了(事業期間:平成23年度～平成27年度)

(平成31年3月31日現在)

■ 産地魚市場を核とした流通・加工体制の構築

地域に根ざした水産業の振興

漁業と流通・加工業の一体的な再生のため、県では、荷捌き施設、製氷・貯氷施設、冷凍・冷蔵施設、水産加工施設等の復旧・整備など、産地魚市場を核とした流通・加工体制の構築を進めてきました。

その結果、被災した県内全ての産地魚市場が再開し、製氷・冷蔵能力はおおむね震災前の水準まで回復したほか、被災した水産加工事業所の約9割が事業を再開しています。

今後は、漁獲から流通・加工までの一貫した高度衛生品質管理体制を構築することで、産地競争力を高め、販路の回復・拡大を図るほか、加工技術の高度化による県産水産物の更なる高付加価値化を促進していきます。



大船渡魚市場 高度衛生管理型魚市場の整備(平成26年4月完成)

主要4港(久慈、宮古、釜石、大船渡)の製氷・冷蔵能力復旧状況

区分	震災前①	復旧状況②	②/①
製氷	535 t/日	702 t/日	131.1%
貯氷	13,160 t	11,350 t	86.2%
冷凍(凍結)	1,691 t/日	1,771 t/日	105.0%
冷蔵	136,912 t	144,064 t	105.1%

(平成31年3月31日現在)



専門家による現地指導(高度衛生品質管理体制の構築)



「復興シーフードショーIWATE」の開催(販路の回復・拡大)

■ 県産農林水産物の安全・安心と魅力の発信

風評被害対策と販路の回復・拡大

原発事故に伴う県産農林水産物の風評被害対策と、縮小した販路の回復・拡大に向け、全国の消費者・シェフ等を対象としたホームページ・ニュースレターによる情報発信や、大都市圏における復興レセプション・レストランフェア・商談会の開催、首都圏のシェフを県内に招聘した産地見学会の実施などのプロモーション活動に取り組み、県産農林水産物の安全・安心と魅力の発信を行いました。

しかし、依然として本県産農林水産物の購入をためらう等の風評被害があることから、引き続き、消費者の信頼回復と、県産農林水産物の販路の回復・拡大に向けた取組を進めていきます。



首都圏シェフを招いての産地見学会の開催



岩手県復興感謝レセプションの開催



高品質で安全・安心な県産農林水産物をPRするニュースレターの発行

6

商工業・観光

本事業を活用し起業や新事業活動に取組んだ事例

- ・低糖類、低カロリーの健康志向スイーツ専門店の出店
- ・自社製造製品(トルコキキョウ及び原木椎茸)の販路開拓等
- ・大船渡初の本格的アパレルデザイン事業のブランド展開
- ・ゲストハウスの開業と着地型観光窓口の開設

■ 被災地における起業・新事業活動等の支援

さんりくの起業等促進と魅力ある産業の創出

若者や女性をはじめ、被災地において新たなビジネス立上げにチャレンジしようとする方への支援を行うことで、復興まちづくりに合わせたなりわいの再生を図るため、平成25年度から「さんりく未来産業起業促進事業」、平成28年度からは「さんりくチャレンジ推進事業」を実施していました。

平成30年度末までに合計141名の方がこの事業を活用して、起業や新事業活動の展開に取組みました。



問合せ先▶▶ 復興局まちづくり・産業再生課 ☎019-629-6931

■ グループ補助金による中小企業等の再建支援

地域経済の早期復旧・復興に向けて

東日本大震災津波により被災された中小企業等グループの施設・設備の復旧・整備を支援するため、「岩手県中小企業等復旧・復興支援補助事業」を実施しています。

平成30年度までに延べ191グループ1,525事業者がグループ補助金を活用して復旧・復興を進めています。



大船渡市 グループ補助金により再開した商業施設

■ 「いわて復興パワー」による電気料金の割引

企業局の電力を活用した「震災復興」・「ふるさと振興」への支援

企業局の発電した電力を活用して、震災復興・ふるさと振興関連施策を財政的に支援するため、企業局と東北電力株式会社が共同で創設した「いわて復興パワー」により、被災地域の企業等に対する電気料金の割引を行っています。

平成30年度には、約560事業所に対して電気料金の割引を実施し、年間約1億8千万円相当の料金低減を行っています。

■ まちなか再生計画に基づく商業施設の整備

商店街の本格整備へ

「まちなか再生計画」に基づき、商業施設の整備と周辺のまちづくりが一体となって進められています。

平成29年4月には、陸前高田市と大船渡市で大型商業施設が開業しました。そのほか、釜石市では平成30年6月に計画が国に認定され、鶴住居地区に商業施設を整備中です。

また、陸前高田市では、今泉地区での商業施設設置に向けて変更計画の策定が進められています。



アパッセたかた（平成29年4月27日 開業）



キャッセン大船渡（平成29年4月29日 開業）

■ 復興の動きと連動した観光振興

観光入込客数は、おおむね震災前の水準まで回復

本県には、「平泉の文化遺産」、「明治日本の産業革命遺産（橋野鉄鉱山）」の2つの世界遺産や「十和田八幡平国立公園」、「三陸復興国立公園」の2つの国立公園、さらには、「御所野遺跡」や「三陸ジオパーク」など、岩手ならではの観光資源が存在しており、これらを組み合わせた広域周遊滞在型観光の推進や、市町村における日本版DMOの整備・活動の取組、三陸DMOセンターとの連携などにより、観光人材の育成や観光資源を生かした観光地づくりが進んでいるところです。

こうした取組の結果、平成30年における県全体の観光入込客数はおおむね震災前の水準まで回復（沿岸地域はおおむね7割の水準）しており、特に外国人宿泊者数は全国の伸び率を大幅に上回り過去最多となるなど順調に増加しています。



「いわて花巻空港上海定期便」歓迎セレモニー

観光入込客数の状況			
圏域	平成22年	平成29年	平成22年対比
県央（盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、岩手町、葛巻町、紫波町、矢巾町）	887万人回	950万人回	107.1%
県南（花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ケ崎町、平泉町）	1,140万人回	1,147万人回	100.7%
沿岸（宮古市、大船渡市、釜石市、陸前高田市、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村）	582万人回	389万人回	66.8%
県北（久慈市、二戸市、普代村、野田村、軽米町、九戸村、洋野町、一戸町）	287万人回	272万人回	95.0%
合計	2,896万人回	2,759万人回	95.3%

外国人観光客数の状況			
	平成22年	平成30年	平成22年対比
外国人延べ宿泊者数（全県）	83,440人泊	234,750人泊	281.3%

■ 「いわての復興教育」

震災の教訓から得た
3つの教育的価値『いきる』『かかわる』『そなえる』



「いわての復興教育」児童生徒実践発表会



震災学習列車の活用

県内全ての公立小・中学校・義務教育学校及び県立高等学校・特別支援学校では、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するため、「いわての復興教育」プログラムに基づき、震災津波の教訓から得た3つの教育的価値を育てています。

また、震災津波の経験や教訓を踏まえ、副読本やいわて震災津波アーカイブ～希望～を活用し、各校の実情に応じた取組を展開しています。

『いきる』

震災津波の経験を踏まえた
生命の大切さ・心のあり方・心身の健康

『かかわる』

震災津波の経験を踏まえた
人の絆の大切さ・地域づくり・社会参画

『そなえる』

震災津波の経験を踏まえた
自然災害の理解・防災や安全



副読本(小学校低学年用)

「いわての復興教育」≫ <https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/fukkou/1006326.html>

問合せ先≫ 「いわての復興教育」教育委員会事務局学校調整課
「いわて震災津波アーカイブ～希望～」復興局復興推進課

☎019-629-6206
☎019-629-6945

■ 学校施設の新設・復旧

教育環境の整備・充実

被災した学校施設の復旧を進めています。平成30年12月には、陸前高田市立気仙小学校が完成し、被災した沿岸部の公立学校86校の校舎全てが復旧しました。

■ いわての学び希望基金

子どもたちの「暮らし」と「学び」のために



陸前高田市立気仙小学校(平成30年12月完成)

県では、被災地の子どもたちの「暮らし」と「学び」を支援するため、「いわての学び希望基金」を設置し、全国・海外の皆様からの善意の寄附を広く募っています。

皆様からご支援いただいた寄附金は、23,080件、97億円(平成31年3月)となり、親をなくした子どもたちへの奨学金のほか、高校生の教科書購入費用や部活動の遠征費など、被災地の子どもたちを末永く支援していきます。

問合せ先≫ 復興局復興推進課 ☎019-629-6922

■ 文化・芸術による支援

文化芸術の力で子どもたちに笑顔を

国内外からの復興支援の一環として、現役最高齢のバイオリニストのイヴリー・ギトリスさんによる“復興の絆”コンサートを開催するなど、文化芸術の鑑賞機会や交流の場を提供しています。

また、被災地を対象に、小中学校などを会場にして、器楽演奏、人形劇、演劇など、芸術家の派遣公演を行う「文化芸術による子どもの育成事業」を実施しています。

■ ラグビーワールドカップ2019™開催への取組

岩手・釜石開催に向けた取組の推進

平成30年8月19日に釜石鶴住居復興スタジアムオープニングDAYを開催し、スタジアムではオープニングイベント・メモリアルマッチ、釜石東中学校生徒等による合唱、キックオフ宣言、キッズラグビー、レジェンドマッチ等を行い、釜石市内で行ったパブリックビューイング等と合わせて約7,000人が観戦しました。

県では釜石市を含む全国12開催都市で開催されるラグビーワールドカップ2019™日本大会において、東日本大震災津波の際に世界中から頂いた支援への感謝の思いと、復興に力強く取組む姿を国内外に発信する絶好の機会と捉え、様々な取組を実施しています。



メモリアルマッチ(釜石シーウェイブスRFC VS ヤマハ発動機ジュビロ)



釜石高等学校生徒によるキックオフ宣言

「いわてかまいしラグビー情報」ホームページ》<https://www.rugby-iwate.kamaishi.pref.iwate.jp/index.html>

問合せ先》文化スポーツ部ラグビーワールドカップ2019推進室 ☎019-629-6796

■ 国際交流の促進

海外との文化交流

県では平成30年9月27日～10月5日にラグビーワールドカップ2019™開催機運の醸成、国際交流の促進及び本県のラグビーの競技力向上を図るために、ニュージーランドのクライスト・カレッジ高校ラグビー部を招聘した交流事業を行いました。釜石高等学校を含む県内の学校訪問、交流試合・合同練習を通じたラグビーの交流、被災地での防災研修、ホームステイ等による異文化体験を行いました。



クライスト・カレッジ高校ラグビー部(平成30年10月4日)

■ 伝統文化等の保存・継承

郷土芸能の復興支援

被災した郷土芸能団体の活動再開を支援しています。平成31年3月末までに被害を受けた74団体のうち70団体の支援を行いました。



白浜虎舞

■ NPO等が行う復興活動を支援

復興支援の担い手の運営力を強化

NPO等は、その機動力、ネットワーク、専門性を活かし、復興支援活動をはじめとした地域課題解決に大きな役割を果たしています。

県は、平成25年度から「NPO等による復興支援事業」を実施し、NPO等が行う復興・被災者支援活動への助成や団体の運営基盤を強化するための支援を行っており、平成30年度は21団体に事業費助成を行いました。



助成事例 ①

「スポーツによる コミュニティ再生」

NPOが地区の公民館等を回り、身体を動かすことを切り口に共通の話題作りを行うことで、災害公営住宅や集約された仮設住宅における再コミュニティづくりに取り組みました。また、各種スポーツ教室の開催など心と身体の健康支援に取り組みました。

助成事例 ②

「漁業集落8地区の 協働による復興まちづくり」



NPOが8地区の漁業集落をつなぎ、行政等と協働しながら地域資源を活かしたまちづくりに向けて、漁業の魅力伝える体験ツアーを行いました。また、地域コミュニティの維持のため、園芸教室や心のケア等、高齢者の孤独化防止に取り組みました。

問合せ先▶ 環境生活部若者女性協働推進室 019-629-5198

■ 新たなコミュニティの形成支援

市町村のコミュニティ形成支援をサポート

被災された方が、恒久的な住宅へ移った後も、安心して心豊かに暮らせる生活環境を実現することが求められています。

災害公営住宅や移転先における新たなコミュニティ形成を支援するため、平成29年度から市町村及び被災者支援を行う民間団体等の調整役となるコーディネーターを配置し、市町村の取組を支援しています。



恒久住宅移行期コミュニティ支援ワークショップ
(平成31年2月)

■ 若者・女性等の復興への参画

住民一人ひとりが復興の主角

復興の取組にあたっては、女性、若者、高齢者、障がい者等の多様な視点が重要です。

被災地では、若者・女性等が主体となった復興まちづくりや地域課題解決に向けた取組も進んでいます。

取組事例

多様な主体が語り合う 「釜石〇〇会議」

多様な市民が世代や立場を超えて地域の魅力を語り合ったり、地域での暮らしをより楽しくするための新たな企画を立ち上げたりするなど、市民主導のまちづくりを推進しています。



実現したい企画を
話し合う参加者



実現した「ワンダフル散歩
(ワンボ)チーム」の企画



「釜石〇〇会議」
集合写真

⑨

未来のための 伝承・発信



▲展示鳥瞰図

東日本大震災津波伝承館の整備

(愛称:「**いわて TSUNAMI メモリアル**」)

後世への伝承と防災教育への活用

東日本大震災津波の悲劇を繰り返さないため、今回の災害の事実を踏まえた教訓を後世に伝承するとともに、復興の姿を国内外の人々に発信することを目的として、陸前高田市の「高田松原津波復興祈念公園」内に、東日本大震災津波伝承館を整備しています。

館内では、「いのちを守り、海と大地と共に生きる」を展示のテーマに、三陸の津波被害の歴史や、東日本大震災津波の事実、震災から得た教訓などを学ぶことができる映像の上映や展示などを行います。

「いわて復興未来塾」や「いわて三陸復興フォーラム」の開催

復興の今を伝え、復興への参画を促進

復興を担う個人や団体など多様な主体が復興について幅広く学び合う「いわて復興未来塾」を継続的に開催し、相互に交流、連携しながら復興の推進を図っています。

また、被災地域の現状や復興の取組についての情報を発信するため、「いわて三陸復興フォーラム」を県内外で開催し、復興の取組に対する理解や、継続的な支援、参画の促進を図っています。



「いわて三陸復興フォーラムin埼玉」



平成30年度第1回いわて復興未来塾
(平成30年7月)

復興動画「復興新時代をいわてから。」の制作

復興に取り組む岩手の姿を発信

東日本大震災津波で被災し不通となっていた、JR山田線の宮古～釜石間が経営移管され、3月に「リアス線」として開通した三陸鉄道。平成27年度から「ふるさと科」を導入し、郷土芸能の伝承活動や地域産業の体験、震災の教訓を今後に生かすための復興教育などに取り組む大槌町の小中一貫教育校・吉里吉里学園。

「被災地の今」を取り上げ、復興に取り組む岩手の姿を伝える動画を制作しました。

岩手県公式動画チャンネルURL» <https://www.youtube.com/user/prefiwate>



岩手県知事 達増拓也 presents!

岩手県公式インターネット番組『いわて希望チャンネル』

震災の風化防止や、より多くの人々に本県への関心を持っていただきたいという想いを伝えるため、達増知事がメインパーソナリティを務め、インターネット番組『いわて希望チャンネル』を毎月1回、「ニコニコ生放送」で配信しています。

いわて希望チャンネルURL» <https://ch.nicovideo.jp/iwate-kibou>

いわて希望チャンネルFacebook» <https://www.facebook.com/prefiwatewebtv>

過去放送分はこちら» <https://www.pref.iwate.jp/kensei/kouchoukouhou/1001386/1001388.html>



自衛隊による活動

138日間にわたり多方面での支援活動を展開

東日本大震災津波では、10万7千人という空前の規模で自衛隊が派遣されました。陸・海・空の3自衛隊が、訓練以外で統合任務隊として運用されたのは初めてのことです。

自衛隊は、被災者の救出や行方不明者の捜索のほか、がれきの撤去、支援物資の運送、給水、給食のほか、女性自衛官による「お話し隊」が避難所を巡回して傾聴活動を行うなど、多方面にわたる活動を展開しました。



行方不明者の捜索 大船渡市



音楽隊によるミニコンサート 田野畑村

消防による活動

全国からの援助隊と地元消防団により活動を展開

本県からの緊急消防救助隊派遣要請により、全国からの緊急消防援助隊の派遣数が延べ2,279隊、7,633人にのぼり、名古屋市消防局が県内消防活動全般の指揮をとるなど、多くの都道府県隊の支援による活動が行われました。

また、地元消防団員も、自ら被災した団員も多い中、被災住民の救助や避難所の運営支援、行方不明者の捜索活動などを行ったほか、近隣市町村の消防団員延べ1,400名以上による支援活動が行われました。



緊急消防援助隊 大船渡市



県外から被災地に到着した消防車群 陸前高田市

被災市町村への職員派遣

全国の自治体等から4,300人を超える人材を確保

今回の震災により、沿岸の5市町村で108人の職員の方が犠牲となりました。このような中、発災直後の3月末に、名古屋市から陸前高田市に対して職員派遣の申出があり、その後も県内及び全国の自治体から同様の申出などにより、平成23年度は171人を、平成31年3月までに4,300人を超える人材を確保することができました。現在も全国の自治体に協力を依頼しています。



派遣職員の職場の様子
(平成30年度、大槌町役場)

	必要人数	派遣決定数	一般事務					その他
			うち用地関係	土木	建築	保健師		
平成23年度 (H24.3.1現在)	—	171	97	0	42	10	12	10
平成24年度 (H25.3.1現在)	366	321	145	21	127	21	16	12
平成25年度 (H26.3.1現在)	628	596	294	70	204	38	21	39
平成26年度 (H27.3.1現在)	737	697	397	83	204	44	15	37
平成27年度 (H28.3.1現在)	777	715	418	65	211	43	8	35
平成28年度 (H29.3.1現在)	760	695	420	46	188	42	8	37
平成29年度 (H30.3.1現在)	671	615	373	48	161	29	12	40
平成30年度 (H31.3.1現在)	575	524	347	33	120	23	11	23

※その他は、機械技師、電気技師、看護師、社会福祉士、保育士、理学療法士、司法書士など

野田村	田野畑村	岩泉町	宮古市	山田町	大槌町	釜石市	大船渡市	陸前高田市	合計
11	20	5	34	50	101	119	48	136	524

(平成31年3月1日現在)

■ 全国から226人の警察官が本県へ特別出向

被災地の安全と安心の確立のために

平成23年度から平成28年度まで1都15県から延べ226人の警察官が本県に特別出向し、被災地の良好な治安の確保のため、応急仮設住宅の巡回やパトロール活動をはじめ、交通安全活動、犯罪の取締りなどに従事しました。

また、大船渡・釜石・宮古署では、沿岸地域の児童・幼児を対象に、ヒーロー寸劇等による防犯啓発活動も行いました。



特別出向警察官着任式



警察官によるヒーロー寸劇

本県への警察官特別出向人数

出向元	出向人数(延べ)
青森県	15
警視庁	31
埼玉県	8
神奈川県	10
山梨県	11
長野県	23
三重県	15
岡山県	17
広島県	32
徳島県	5
香川県	7
高知県	5
熊本県	18
大分県	9
宮崎県	9
沖縄県	11
合計	226

■ 医療チームの派遣

全国各地の医師による被災地医療支援

発災直後には、国の要請を受けた全国のDMATが来援し、29都道府県の128チームがトリアージや応急処置、病院支援の活動を展開しました。

また、発災後間もなく岩手医科大学に設置された「災害時地域医療支援室」が窓口となって受入調整を行い、平成23年12月末までの間に88チーム、延べ4,463人の県外医師による医療支援が行われました。

さらに、岩手県医師会(JMAT岩手)による、内陸部から沿岸被災地への診療応援活動により、2つの県立病院がその支援を受けました。



参集したDMATによる打合せ 宮古市(平成23年3月)

■ 海外からの支援

つながりに感謝

被災地では、米軍と自衛隊による「トモダチ作戦」をはじめ、米国・英国・中国などの救援隊も救援活動にあたりました。

また、発災直後から、多くの国々から支援物資が届けられたほか、台湾をはじめとする世界各国・地域からの義援金や寄附金が、三陸鉄道の復旧や被災地における保育所・学童施設・ホールなどの施設整備に役立てられました。



海外からの救援隊 大船渡市(平成23年3月)

©US Pacific Fleet

これまでいただいた支援の状況

東日本大震災津波発災以降、国内外の皆様から多大な御支援や励ましをいただき、心より厚く御礼を申し上げます。

ふるさといわて応援寄付(ふるさと納税) 11億円

(平成31年2月末現在)

三陸沿岸復興、ラグビーワールドカップ2019™を契機とした観光客受入れ等基盤整備や国際Jニアコライダーの実現など、岩手の施策を実現するための資金として活用させていただいております。

問合せ先》総務部税務課 ☎019-629-5144

寄附金 197億円

(平成31年3月末現在)

被災者の生活支援や住宅再建支援、雇用確保や産業の復興に活用させていただいております。

問合せ先》保健福祉部保健福祉企画室 ☎019-629-5408

義援金 541億円

(平成31年3月末現在)

被災された方々の生活再建のために活用させていただいております。

問合せ先》復興局生活再建課 ☎019-629-6917

いわての学び希望基金 97億円

(平成31年3月末現在)

教育の充実のための奨学金、教科書や制服の購入費、修学旅行や部活動への参加経費など、被災地の子どもたちの「暮らし」と「学び」のために活用させていただいております。※いわての学び希望基金には、ふるさと納税からも一部が寄附されています。

問合せ先》復興局復興推進課 ☎019-629-6922

活動ボランティア受入人数

延べ563,001人

(平成31年3月末現在)

今後とも、被災者と被災地に寄り添うご支援を引き続きお願いいたします。

問合せ先》岩手県社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター ☎019-637-9711

復興が着実に進むよう、全力で取り組んで参りますので、引き続き、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

これまでの復興の歩み

2011.3~2019.3

▶ 2011

- 3月 11日 東日本大震災津波発生
岩手県災害対策本部設置
- 13日 県内の避難者数が最多の5万4,429人に(在宅含む)
- 15日 航路等の啓開により、県内港湾で初めて釜石港の荷役制確保
- 16日 釜石港に救援物資を積んだ第1船入港
三陸鉄道北リアス線
陸中野田〜久慈間の運行再開(以後、4月1日までに他2区間において運行再開)
- 19日 応急仮設住宅の建設を開始(陸前高田市・釜石市)
- 4月 9日 県内初となる応急仮設住宅への入居開始(陸前高田市)
- 11日 「がんばろう!岩手宣言」発表
「岩手県東日本大震災津波復興委員会」設置
- 29日 東北新幹線が全線復旧
- 5月 6日 天皇后両陛下が被災地をご訪問(釜石市・宮古市)
- 25日 文仁親王同妃両陛下が被災地をご訪問(~26日、大槌町・山田町)
- 6月 2日 宮古市に「子どものこころのケアセンター」を設置
6日 正仁親王妃殿下が避難所をご訪問(雫石町)
- 20日 「東日本大震災復興基本法」成立
- 29日 平泉の文化遺産が世界遺産に登録
- 7月 3日 「東北復興平泉宣言」発表
- 13日 県内で初めて宮古港のコンテナ貨物取扱い再開
- 15日 三陸鉄道が2014年4月までに全線運行再開の方針を決定
- 26日 自衛隊が本県での支援活動任務を終了、県庁前で感謝式開催
- 8月 5日 皇太子同妃両陛下が被災地をご訪問(大船渡市)
- 11日 県内全ての応急仮設住宅が完成
県が「岩手県東日本大震災津波復興計画復興基本計画」を策定
- 31日 県内の全ての避難所を閉鎖
- 9月 16日 憲仁親王妃殿下が被災地をご訪問(住田町・陸前高田市)
- 28日 東京都が岩手県内のがれき受け入れを発表、初の広域処理へ
- 10月 3日 岩手県産業復興相談センター開所
- 11月 20日 復興道路が着工(三陸沿岸道路(尾肝要道路))(田野畑村)
- 12月 7日 「東日本大震災復興特別区域法」成立
26日 県が復興特区プロジェクトチームを設置

▶ 2012

- 2月 15日 岩手医科大学内に「岩手県こころのケアセンター」を開設
- 10日 国が復興庁を設置し、盛岡市に岩手復興局、宮古市と釜石市に支所を設置
- 26日 釜石港湾口防波堤の復旧工事に着工(釜石市)
- 3月 8日 県内初の防潮堤復旧工事に着工(宮古市金浜海岸)
- 11日 東日本大震災津波から1年、各地で追悼式などが挙行される
- 28日 沿岸4箇所に「地域こころのケアセンター」を設置
- 4月 1日 「いわてDC(デスティネーションキャンペーン)」を開催(~6月30日)
- 5月 26日 東北六魂祭が盛岡で開催され、2日間で24万人を超える人出を記録
- 6月 11日 県が「復旧・復興ロードマップ(総括工程表)」を発表
14日 県内で初めて災害公営住宅の建設に着手(釜石市平田地区)
- 9月 12日 陸前高田市「奇跡の一本松」を保存のため伐採
- 10月 10日 県内で初めて、高台移転のための用地造成工事に着工(田野畑村)
- 11月 25日 大震災津波後、県内で初めてとなる復興道路の供用開始
(東北横断自動車道釜石秋田線(宮守~東和))(遠野市、花巻市)
- 12月 10日 県内で初めて災害公営住宅への入居開始(大船渡市盛中央団地)
- 13日 大槌町の蓬莱島の灯台が再点灯
- 19日 文仁親王同妃両陛下が被災地をご訪問
(~20日、陸前高田市・大船渡市・遠野市・盛岡市)

岩手日報2011年3月13日付



▶ 2013

- 1月 26日 大阪府において「いわて三陸復興フォーラム」を開催
- 2月 1日 県内全ての応急仮設住宅団地500メートル以内にバス停の設置を完了
- 6日 東京都において「東北連携復興フォーラム」を開催
- 9日 宮古市において「復興のかけ橋フォーラム」を開催
- 3月 2日 JR大船渡線気仙沼～盛間でBRTによる運行開始
- 10日 復興道路「宮古盛岡横断道路(築川道路)」供用開始(盛岡市)
- 23日 復興道路「三陸沿岸道路(宮古道路(宮古中央インター線))」供用開始(宮古市)
- 25日 県内で初めてとなる移転先宅地の造成工事が完了(宮古市追切・浦の沢地区)
- 4月 1日 久慈市を舞台としたNHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」放映開始
- 3日 三陸鉄道南リアス線盛～吉浜間の運行再開
- 5月 8日 矢巾町に「いわてこどもケアセンター」を設置
- 24日 「三陸復興国立公園」創設
- 7月 3日 「奇跡の一本松」保存事業完成式開催
- 4日 天皇皇后両陛下が被災地をご訪問(～5日、遠野市・住田町・大船渡市・陸前高田市・一関市)
- 25日 2016年国体の岩手開催が正式決定
- 8月 5日 正仁親王同妃両陛下が被災地をご訪問(～6日、岩泉町・田野畑村・野田村・久慈市)
- 23日 「ILC立地評価会議」が国際リニアコライダー(ILC)の国内建設候補地を北上山地に決定
- 27日 米国ニューヨーク市で「トモダチでありがとう」震災復興報告会を開催
- 9月 24日 県沿岸部を中心とした「三陸ジオパーク」が日本ジオパークに認定
- 10月 13日 復興道路「三陸沿岸道路(普代道路)」供用開始(普代村)
- 11月 1日 皇太子同妃両陛下が被災地をご訪問(～2日、釜石市)
- 2日 大船渡市において「いわて三陸復興フォーラム」を開催
- 12月 19日 愛知県において「いわて三陸復興フォーラム in 名古屋」を開催

▶ 2014

- 2月 6日 シンポジウム「いわての復興を自治の進化に」を開催(～7日)
- 13日 東京都において「東北4県・東日本大震災復興フォーラム」を開催
- 3月 2日 復興道路「三陸沿岸道路(尾肝要道路)」供用開始(田野畑村)
- 23日 復興道路「三陸沿岸道路(高田道路)」全線供用開始(陸前高田市)
- 陸前高田市で土砂搬出用のベルトコンベア「希望のかけ橋」稼働開始
- 31日 本県の災害廃棄物処理が終了
- 県が「岩手県東日本大震災津波復興実施計画(第2期)」を策定
- 4月 5日 三陸鉄道南リアス線 吉浜～釜石間の運行再開により、全線において運行再開
- 山田町立船越小学校、被災校舎から移転・新築した新校舎での授業開始、被災3県で初
- 6日 三陸鉄道北リアス線 小本～田野畑間の運行再開により、全線において運行再開
- 12日 釜石線花巻～釜石駅間でSL銀河が営業運転を開始
- 23日 大船渡市新魚市場の完成式典開催
- 用地取得迅速化のための「東日本大震災復興特別区域法の一部を改正する法律」成立
- 5月 29日 リアスハーバー宮古の復旧工事を完了・供用再開
- 6月 23日 県栽培漁業協会が震災後初のアワビ種苗を出荷
- 26日 国・県・陸前高田市による「高田松原津波復興祈念公園基本構想」策定
- 8月 24日 復興道路「宮古盛岡横断道路(平津戸松草道路・区界道路)」の着工により
- 県内の復興道路が全て着工
- 30日 仏国パリ市で「東北復興祭“環<WA>”in PARIS」開催(～31日)
- 11月 7日 // 「つながりに感謝」震災復興報告会を開催
- 12月 18日 釜石警察署平田駐在所が開所、警察施設としては県内初の災害復旧後の開所

▶ 2015

- 1月 8日 兵庫県において「いわて三陸復興フォーラム in 神戸」を開催
- 15日 盛岡市・大船渡市において「いわて三陸復興フォーラム」、シンポジウム「いわての復興を自治の進化に」を開催(～16日)
- 28日 宮古市立田老第三小学校校庭の応急仮設住宅を解体、学校校庭からの完全撤去は県内初
- 2月 12日 東京都において「東北4県・東日本大震災復興フォーラム」を開催
- 3月 2日 「ラグビーワールドカップ2019」の開催都市に「岩手県・釜石市」が決定
- 14日 「第3回国連防災世界会議」が仙台市をメイン会場に開催される
- 岩手県は「防災・復興に関する岩手県からの提言」を世界に発信(～18日)
- 「3.11東日本大震災遠野市後方支援資料館」が開所(遠野市)
- 19日 県立高田高等学校新校舎が完成(陸前高田市)
- 31日 県内牧草地の除染作業が完了



▶ 2015

- 4月 26日 再建された小袖海女センターがオープン(久慈市)
- 5月 30日 第1回いわて復興未来塾を開催(盛岡市)
- 7月 8日 釜石市の橋野鉄鉱山を含む「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産に登録
- 12日 県内で初めて、仮設商店街が本設として移転オープン(大船渡市)
- 11月 10日 台湾台北市で「つながりに感謝」震災復興報告会を開催
- 22日 高台移転地の造成工事がほぼ完了した田老地区で「田老まちびらき記念式」が開催される(宮古市)
- 29日 復興道路「三陸沿岸道路(吉浜道路)」供用開始(大船渡市)
- 12月 5日 復興道路「東北横断自動車道釜石秋田線(遠野～宮守)」供用開始(遠野市)
- 18日 静岡県において「いわて三陸復興フォーラム in 静岡」を開催
- 23日 「小本津波防災センター」が完成し岩泉小本駅と一体化

▶ 2016

- 1月 22日 盛岡市・大槌町において「いわて三陸復興フォーラム」を開催(～23日)
- 27日 第71回国民体育大会「希望郷いわて国体冬季大会」を開催(～31日、2月20日～23日)
- 2月 10日 「東北4県・東日本大震災復興フォーラムin東京」を開催
- 3月 12日 復興道路「宮古盛岡横断道路(都南川目道路(川目～田の沢))」供用開始(盛岡市)
- 13日 大船渡駅周辺地区で「第1期まちびらき」を開催
- 4月 11日 新「がんばろう!岩手」宣言発表
- 17日 大槌町の浪板海岸に「浪板海岸ヴィレッジ」がオープン
- 23日 久慈地下水族科学館「もぐらんぴあ」が営業再開
「田老野球場(愛称:キット、サクラサク野球場)」の復旧祭を開催
- 27日 県立大槌病院が再建、新築落成式を開催
- 5月 20日 いわて内陸避難者支援センターを開所
- 6月 20日 皇太子同妃両殿下が被災地をご訪問(～21日、岩泉町・宮古市)
- 8月 19日 県立山田病院が再建、新築落成式を開催
- 30日 台風10号が岩手県に上陸
- 9月 26日 被災した小・中5校を統合、
県内初の義務教育学校大槌町立大槌学園の新校舎での授業開始
- 28日 天皇后両陛下が被災地をご訪問
(～10月2日、花巻市・遠野市・釜石市・大槌町・山田町・北上市・盛岡市)
- 10月 1日 第71回国民体育大会「希望郷いわて国体本大会」を開催(～11日)、
開会式に天皇后両陛下ご臨席
- 3日 彬子女王殿下が被災地をご訪問(～5日、釜石市・大槌町・奥州市・花巻市)
- 5日 正仁親王妃殿下が被災地をご訪問(～7日、奥州市・花巻市・北上市・陸前高田市)
憲仁親王妃殿下が被災地をご訪問(～7日、滝沢市・盛岡市・奥州市・釜石市)
寛仁親王妃殿下が被災地をご訪問(～7日、大船渡市・釜石市・花巻市・奥州市)
- 7日 眞子内親王妃殿下が被災地をご訪問(～9日、盛岡市・紫波町・宮古市・岩泉町・田野畑村)
- 8日 瑠子女王殿下が被災地をご訪問(～10日、洋野町・野田村・普代村・久慈市・滝沢市・盛岡市・二戸市)
- 9日 文仁親王同妃両殿下が被災地をご訪問(～11日、久慈市・岩手町・雫石町・矢巾町・盛岡市・北上市)
- 11日 文仁親王同妃両殿下が「希望郷いわて国体本大会」閉会式ご臨席
- 21日 皇太子殿下が被災地をご訪問(～23日、盛岡市・花巻市・北上市・奥州市・一関市・平泉町)
- 22日 第16回全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」を開催(～24日)、
開会式に皇太子殿下ご臨席
- 23日 憲仁親王妃殿下及び絢子女王殿下が被災地をご訪問(～24日、盛岡市・花巻市・金ケ崎町・北上市)
- 24日 憲仁親王妃殿下及び絢子女王殿下が「希望郷いわて大会」閉会式ご臨席
- 11月 10日 山田町で共同店舗「オール」オープン
- 12月 3日 長野県において「いわて三陸復興フォーラム in 長野」を開催

▶ 2017

- 1月 20日 盛岡市・釜石市において「いわて三陸復興フォーラム」を開催
- 3月 3日 「東北4県・東日本大震災復興フォーラムin東京」及び
「東京から元気を届けよう!復興応援2017」を開催
- 5日 「高田松原津波復興祈念公園」着工
- 30日 県が「岩手県東日本大震災津波復興実施計画(第3期)」を策定
「いわて震災津波アーカイブ～希望～」を公開
- 19日 大船渡港湾口防波堤が完成
- 4月 27日 商業・図書館複合施設「アバッセたかた」オープン



▶ 2017

- 4月 29日 商業施設「キャッセン大船渡」オープン
- 7月 27日 「全国知事会議岩手」が盛岡市で開催され、「岩手宣言」を採択(～28日)
- 9月 23日 大阪府から岩手県に無償譲渡された「ガントリークレーン」供用開始
- 11月 19日 復興道路「三陸沿岸道路(山田宮古道路(山田～宮古南))」供用開始(山田町、宮古市)
- 12月 8日 釜石市民ホール「TETTO」開館記念式典開催
- 9日 「いわて三陸復興フォーラムin東京」開催

▶ 2018

- 1月 26日 盛岡市、大船渡市、陸前高田市で「いわて三陸復興フォーラム」開催(～27日)
- 2月 16日 県立高田病院が再建、新築落成式を開催
- 17日 「復興応援・復興フォーラム2018in東京」を開催
- 3月 21日 復興道路「三陸沿岸道路(宮古田老道路・田老岩泉道路(田老真崎海岸～岩泉龍泉洞))」供用開始(宮古市・岩泉町)
- 30日 釜石港湾口防波堤完成
- 6月 10日 大槌町文化交流センター「おしゃっち」開館
- 2日 「東北絆まつり2018盛岡」開催(～3日)
- 22日 岩手県初のフェリー航路「宮古・室蘭フェリー」宮古港から出航
- 7月 17日 「国際防災・危機管理研究 岩手会議」の一般向け公開プログラムとして「平成30年度第1回いわて復興未来塾」を開催
- 28日 復興道路「三陸沿岸道路(唐桑高田道路(陸前高田長部～陸前高田))」供用開始(陸前高田市)
- 8月 11日 復興道路「三陸沿岸道路(吉浜釜石道路(吉浜～釜石南))」供用開始(大船渡市・釜石市)
- 19日 釜石鵜住居復興スタジアムが完成、オープニングイベントを開催
- 10月 1日 宮古市中心地市街地拠点「イーストピアみやこ」供用開始
- 11月 17日 「いわて三陸復興フォーラムin埼玉」開催
- 12月 14日 陸前高田市立気仙小学校が再建、落成式を開催
県内の被災公立学校86校の学校施設が全て再建
- 16日 盛岡市、宮古市で「いわて三陸復興フォーラム」を開催(～17日)

▶ 2019

- 1月 12日 復興道路「三陸沿岸道路(釜石山田道路(大槌～山田南))」供用開始(大槌町・山田町)
- 2月 10日 「復興応援・復興フォーラム2018in東京」を開催
- 3月 3日 復興道路「東北横断自動車道釜石秋田線(遠野道路(遠野住田～遠野))」供用開始(遠野市)
- 9日 復興道路「三陸沿岸道路(吉浜釜石道路・釜石山田道路(釜石南～釜石両石))」、
「東北横断自動車道釜石秋田線(釜石道路(釜石～釜石仙人峠))」供用開始(釜石市)
東北横断自動車道釜石秋田線の全線開通
- 21日 復興道路「三陸沿岸道路(唐桑高田道路(唐桑小原木～陸前高田長部))」
供用開始(宮城県気仙沼市・陸前高田市)
- 23日 三陸鉄道「リアス線」全面開通
- 30日 復興道路「宮古盛岡横断道路(宮古西道路(宮古中央～宮古根市))」供用開始(宮古市)



提供：南三陸国道事務所



開催期間 2019年 6/10～8/7

開催地 宮古市、大船渡市、久慈市、陸前高田市、釜石市、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村、普代村、野田村、洋野町

主催 三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会 事務局 岩手県産業地域部三陸防災復興プロジェクト2019推進室

三陸防災復興プロジェクト2019 地図



人口／世帯数

1,235,559人/526,248世帯（平成31年3月1日現在）

位置／面積

岩手県は本州の北東部に位置し、東西約122km、南北約189kmと南北に長い楕円の形をしています。その広さは北海道に次ぐ面積(15,275.01km²)であり、日本の面積の4%を占めています。

県旗・県章

県旗は、県章をなんど色(グリニッシュグレイ)の地色の旗面中央に白ぬきしたもので、昭和40年3月6日に制定しました。



県旗・県章

県の鳥

キジ 県内全域に生息しています。雄は光った帯緑黒色の美しい羽と長い尾羽を持ち、雌は地味で体が淡黄かつ色、体一面に黒点があります。気品にあふれ、勇壮で愛情こまやかな習性は県民性を表しています。



キジ



ナンブアカマツ

県の木

ナンブアカマツ 県内いたるところに生息している本県産の代表的樹種です。特に古生層の丘陵地帯に多く、早く成長します。油脂分が多いため、磨けば磨くほど優雅な光沢を出し、純和風高級材として質、量ともに日本一を誇っています。



キリ

県の花

キリ 本県産のキリは、材の光沢が強く淡紫色をおびて美しいので「南部の紫桐」として知られています。



南部さけ

県の魚

南部さけ 体長約90cm、体は紡錘形をしていて、秋、故郷の川をさかのぼり、上流の砂底に産卵します。岩手県は、秋サケでは、本州一の漁獲量を誇り、昔から多くの県民に親しまれてきた魚です。

新幹線 盛岡駅まで

新函館北斗	約1時間55分
東京	約2時間10分
名古屋	約4時間10分
大阪	約5時間10分
福岡	約7時間45分

航空 いわて花巻空港まで

札幌	約55分
名古屋	約70分
大阪	約80分
福岡	約120分

東北自動車道 盛岡ICまで

東京	約5時間30分(東北道)
名古屋	約10時間30分(東名・首都高速・東北道経由)
大阪	約13時間(名神・北陸・磐越・東北道経由)



岩手県へのアクセス

20万点を超える東日本大震災津波に関する資料を検索・閲覧できます。

いわて震災津波アーカイブ **希望**

<http://iwate-archive.pref.iwate.jp/>

パソコンから タブレットから スマートフォンから

今すぐアクセス

CHECK!



復興教育の
資料に

防災活動の
参考に

震災伝承に



東日本大震災津波からの復興・復興の事実を後世に残すとともに、これらの出来事から得た教訓を今後の国内外の防災活動に生かすため、平成29年3月に「いわて震災津波アーカイブ～希望～」をインターネット上で公開し、収集した約24万点の震災津波関連資料を検索・閲覧できるようにしています。

防災教育や地域の防災活動等に活用できるよう、子供向けのコンテンツも充実しているほか、地元の新聞紙の震災直後の記事も閲覧可能となっています。